

2025年5月9日

沖縄県がん診療連携協議会
委員各位

離島・へき地部会部会長
赤松 道成
(北部地区医師会病院 外科科長)

北部医療圏、宮古医療圏、八重山医療圏における分野別のがん医療の短期目標（案）

第4次がん対策推進計画（協議会版）では、

第2 分野別施策と個別目標

2. 患者本位で持続可能ながん医療の提供

（3）個別のがん対策

⑥ 離島・へき地

個別施策3 診療病院におけるがん関連の人材配置等を過不足なく行う
に該当する施策です。

離島・へき地部会で協議して、以下の短期・中期的目標（案）を立てましたので、協議会での審議をお願いします。

これらを実現するために、協議会として、琉球大学病院はじめ各拠点病院や場合によってはそれ以外の医療機関に対して働きかけを行っていくことをお願いします。

また、必要が生じた場合は、協議会として、沖縄県病院事業局、沖縄県保健医療介護部等に要望を出すことをお願いします。

A 我が国に多いがん

（「がん診療連携拠点病院等の整備について」（令和４年８月１日付け健発０８０１第１６号厚生労働省健康局長通知）に記載されている大腸がん、肺がん、胃がん、乳がん、前立腺がん及び肝・胆・膵のがんをいう）

1 胃がん、大腸がん

（１）２０２５年４月の状況

北部 消化器内科医５名（うち消化器病専門医２名）、
消化器外科医８名（うち消化器外科専門医５名）

宮古 消化器内科医３名（うち消化器病専門医１名）
消化器外科医６名（うち消化器外科専門医２名）

八重山 消化器内科医３名（うち消化器病専門医１名）
消化器外科医４名（うち消化器外科専門医１名）

（２）今後の方針

３地域とも消化器病専門医３名以上を確保する

３地域とも消化器外科専門医１名以上を維持する

各地域での手術が可能な現在の状況を維持する

2 肝・胆・膵のがん

（１）２０２５年４月の状況

北部 消化器内科医５名（うち消化器病専門医２名）
消化器外科医８名（うち消化器外科専門医５名、肝胆膵外科高度技能専門医０名）

宮古 消化器内科医３名（うち消化器病専門医１名）
消化器外科医６名（うち消化器外科専門医２名、肝胆膵外科高度技能専門医０名）

八重山 消化器内科医３名（うち消化器病専門医１名）
消化器外科医４名（うち消化器外科専門医１名、肝胆膵外科高度技能専門医０名）

（２）今後の方針

３地域とも消化器病専門医３名以上を確保する

手術と放射線治療に関しては、本島の集約化後の施設に紹介する

宮古病院または八重山病院での手術を希望する患者さんが出た場合は、手術のために一時的に医療機関からの専門家の派遣ができるシステムを構築する

3 肺がん

(1) 2025 年 4 月の状況

北部 呼吸器内科医 4 名(うち呼吸器専門医 1 名)
呼吸器外科医 0 名
宮古 呼吸器内科医 1 名(うち呼吸器専門医 0 名)
呼吸器外科医 0 名、非常勤で呼吸器外科専門医 1 名
八重山 呼吸器内科医 3 名(うち呼吸器専門医 3 名)
呼吸器外科医 0 名、非常勤で呼吸器外科専門医 1 名

(2) 今後の方針

3 地域とも呼吸器専門医 1 名以上を確保する

手術と放射線治療に関しては、本島の集約化後の施設に紹介する

宮古病院または八重山病院での手術を希望する患者さんが出た場合は、手術のために一時的に医療機関からの専門家の派遣ができるシステムを構築する

4 乳がん

(1) 2025 年 4 月の状況

北部 外科医 8 名(うち乳腺専門医 0 名)
宮古 外科医 5 名(うち乳腺専門医 0 名)、非常勤で乳腺専門医 1 名(外来月 2 回)
八重山 外科医 5 名(うち乳腺専門医 0 名)、非常勤で乳腺専門医 1 名(外来月 1 回)

(2) 今後の方針

3 地域とも、非常勤で乳腺専門医 1 名以上を確保し、月に 1 回以上外来を行う

手術と放射線治療に関しては、本島の集約化後の施設に紹介する

宮古病院または八重山病院での手術を希望する患者さんが出た場合は、手術のために一時的に医療機関からの専門家の派遣ができるシステムを構築する

5 前立腺がん

(1) 2025 年 4 月の状況

北部 泌尿器科医 0 名(うち泌尿器科専門医 0 名)
宮古 泌尿器科医 1 名(うち泌尿器科専門医 1 名)
八重山 泌尿器科医 1 名(うち泌尿器科専門医 1 名)

(2) 今後の方針

北部 2026 年度中に外来を月に 1 回以上できるようにする

2028 年度中に常勤の泌尿器科専門医 1 名を確保する

宮古、八重山では、引き続き泌尿器科専門医 1 名維持する

手術と放射線治療に関しては、本島の集約化後の施設に紹介する

B 「我が国に多いがん」以外のがん

今後の方針

本島の集約化後の施設に紹介して、確定診断とその後の治療を行う

C 患者会等から特に要望の高かった3つの専門外来の整備について

1 腫瘍内科外来（がん薬物療法専門医による外来）

（1）2025 年 4 月の状況

北部 外来なし

宮古 外来 月 1 回

八重山 外来 月 1 回

（2）今後の方針

北部 外来 月 1 回を開設し、維持する

宮古 外来 月 1 回を維持する

八重山 外来 月 1 回を維持する

* 現在の沖縄県内のがん薬物療法専門医が 7 名（うち拠点病院勤務が 5 名）の状況から、外来を担当する非常勤医師の確保が困難な状況が続いている。また、現在の 3 つの診療病院の対象となる患者数、治療件数から、これ以上の外来回数の増加を目指すよりも、必要な時にコンサルトができ、速やかに回答が得られるシステムの確立がより重要である。

そのため、システムができている県立宮古病院と県立八重山病院は、現在のシステムを維持していく。

システムができていない北部地区医師会病院は、構築できるように、グループ指定をしている琉球大学病院と検討を始める。

2 血液内科外来（血液専門医による外来）

（１）2025 年 4 月の状況

北部 外来なし

宮古 外来 月 1 回

八重山 外来 月 1 回

（２）今後の方針

北部 外来 月 1 回を開設し、維持する

宮古 外来 月 1 回を維持する

八重山 外来 月 1 回を維持する

＊現在の沖縄県内の血液専門医が 27 名（うち中部病院 1 名、那覇市立病院 2 名、琉球大学病院が 9 名）の状況から、外来を担当する非常勤医師の確保が困難な状況が続いている。また、現在の 3 つの診療病院の対象となる患者数、治療件数から、これ以上の外来回数の増加を目指すよりも、必要な時にコンサルトができ、速やかに回答が得られるシステムの確立がより重要である。

そのため、システムができている県立宮古病院と県立八重山病院は、現在のシステムを維持していく。

システムができていない北部地区医師会病院は、構築できるように、グループ指定をしている琉球大学病院と検討を始める。

3 放射線治療外来（放射線治療専門医による外来）

（１）2025 年 4 月の状況

北部 外来なし

宮古 外来 月 1 回

八重山 外来 月 1 回

（２）今後の方針

北部 外来 月 1 回を開設し、維持する

宮古 外来 月 1 回を維持する

八重山 外来 月 1 回を維持する

＊現在の沖縄県内の放射線治療専門医が 14 名（うち中部病院 1 名、那覇市立病院 1 名、琉球大学病院が 3 名）の状況から、外来を担当する非常勤医師の確保が困難な状況が続いている。また、現在の 3 つの診療病院の対象となる患者数、治療件数から、これ以上の外来回数の増加を目指すよりも、必要な時にコンサルトができ、速やかに回答が得られるシステムの確立がより重要である。

そのため、システムができている県立宮古病院と県立八重山病院は、現在のシステムを維持していく。

システムができていない北部地区医師会病院は、構築できるように、グループ指定をしている琉球大学病院と検討を始める。